

## 研究課題別事後評価結果

1. 研究課題名： 新たなアレルギー発症機構の解明とその制御
2. 研究代表者名及び主たる研究参加者名（研究機関名・職名は研究参加期間終了時点）：  
研究代表者  
鳥山 一（東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 教授）  
主たる共同研究者  
峯岸 克行（徳島大学 プロテオ疾患ゲノム研究センター 教授）

### 3. 事後評価結果

○評点：

A 期待通りの成果が得られている

○総合評価コメント：

従来 I 型アレルギーにおいては肥満細胞が重視されていたが、きわめて微量な好塩基球についてのアレルギー病態での重要性を発見し、独自の実験系を立ち上げ、その分子機序を明らかにした点において高く評価される。

好塩基球ではトリプターゼ機能を持つmMCP-11が炎症の発症に重要である一方、活性化好塩基球がIL-4を出すことによって炎症性単球をM2型マクロファージに分化させ、炎症の終焉に寄与するという二面性を明らかにした点はきわめて意義が深い。さらに、好塩基球が寄生虫に対する生体防御の役割を持つことも明らかにした。

解析ツールとして任意のタイミングで好塩基球を生体内から除去できるMcpt8-DTRマウスやアレルギー病変における好塩基球動態を可視化できる遺伝子改変マウスを樹立したことが、本研究プロジェクトを推進する上でのキーとなっている。

また、高IgE症候群の原因遺伝子を見出した成果は患者の予後診断に役立つ点からも、インパクトは大きい。

研究代表者によって国内外の基礎研究者・臨床研究者・企業研究者と十分なネットワーク形成がなされており、今後、好塩基球研究においてさらに世界を牽引していくことが期待される。